

日本橋川の水辺再生に関する考察

日本橋川・神田川の堤防は計画高潮位 A.P.+5.1m に波浪高を考慮して A.P.+5.5m で計画。東京都が平成 30 年 3 月に発表した高潮浸水想定区域図(1,000～5,000 年に 1 回の発生確率、それぞれ 85 年間遭遇確率では 8.2%と 1.8%となる高潮を想定)によると、亀島川水門地点では、A.P.+5.4m。

これらの計画や想定は、地球温暖化に伴う海面上昇は考慮していない。
IPCC 5 次報告書によると、最悪のシナリオでは 2100 年に海面水位は 82cm 上昇するとしている。

日本橋川の水辺の再生にあたっては、将来の海面上昇と洪水流量増加にも考慮する必要があり、次のような対策が考えられる。議論が深められ、必要に応じ、首都高地下計画と同様に都市計画決定等が望まれる。

1. 現行の高潮計画のままとし、浸水深に応じ、まち側で対策
 - ・浸水想定に海面上昇分を加算した浸水レベル*に応じ、まちの耐水化、防水化、水密化
2. 日本橋川、神田川の隅田川合流点に高潮バリアと排水機場設置、隅田川スーパー堤防の整備加速。越波量に応じ、まち側で対策
 - ・神田川の治水効果が期待される。
3. 隅田川に高潮バリアと排水機場設置（複数箇所が候補）
荒川高規格堤防の整備加速。越波量に応じ、まち側で対策

